



天津の子

~Amatsu with your smile~

真庭市立天津小学校

*「天津の子」は本校HPでご覧いただけます。「天津の子」で検索してください。

運動会に向けて

9月20日（日）の運動会に向けてどの学年も練習をがんばっています。運動会の練習で特に子供たちにつけさせたい力は、集団行動力と5・6年生のリーダー力です。全体練習では、低学年の子供たちも素早く集合したり、姿勢に気をつけて話しを聞いたりする姿が見られました。また、5年生が1年生にラジオ体操をやさしく教えている姿や6年生が中心になって応援合戦の練習を指揮する姿が見られました。運動会の練習を通して大切な力を身につけてくれています。



コロナ差別について考える

天津小学校では、全学年でコロナ差別について考える授業を行いました。人権担当の教員が資料を用意し、その資料をもとに学年の発達段階に応じて次の3つの視点で授業を行いました。

- ・感染者やその家族、医療従事者の状況や思いを自分事として考えさせる
- ・コロナウイルスの現段階での正しい知識を教える
- ・コロナウイルスに対しての恐怖心が偏見や差別を生み、それが反対に感染拡大につながってしまうことに気づかせる

資料として、日本赤十字社作成のYoutube動画「ウイルスの次にやって来るもの」を視聴した学年もあります。

【授業後の児童の感想から】

- ・コロナウイルスにかかった人を差別して人を傷つけている人がいることがとてもショックでした。体調が悪くても平気なふりをする人がふえたらもっとコロナウイルスが広がるから「差別」はとてもいけないことだと思いました。

- ・コロナになった人は、なりたくないのになつたんだから差別などをしても未来は何も変わらない。治るように応援したり支えたりしてコロナにならないようにしたい。

【児童の自主学習から】

- ・アメリカの黒人の差別に関する記事を読みました。黒人の人への暴力などをして苦しめる事件がいくつも起きています。そこで黒人女性の大坂なおみ選手が「私のテニスを見るより、もっと注意を向ける多くの重要なことがある」などの声かけ、黒人差別による事件で被害を受けた人の名前がはいったマスクをつけるなどして差別をなくそうという活動をしていたのですごいなと思いました。私たちの住んでいる日本でもコロナにかかった人を差別する人がいます。自分が差別されたら仲間外れにされたらと思わないのか不思議に思います。私はこの記事を読んで差別はいけないもの。差別をなくしたいと思いました。



防災の日給食

9月1日（火）は「防災の日」でした。全校児童集会で校長講話として、日本は地震の多い国であること、台風などによる自然災害が毎年のように起きていることなどから、「自分の命は自分で守る」意識を日頃からもっておくことの大切さを伝えました。

1日の給食も防災の日になんで、日もちする食材やレトルトを使用した給食献立でした。食事からも防災を意識することができました。



岡山大学生学校訪問・教育実習

天津小学校は、2年前から岡山大学の県北での教員をめざす学生の学校訪問（フィールドワーク）を受け入れています。今年で3回目となる学校訪問が9月11日（金）にありました。2時間の授業参観後に、授業参観で学んだことや教員に必要な力について意見交流をしました。

9月7日（月）から岡山大学3回生の笥陽行（かけひたかゆき）先生が教育実習に来ています。2年前に始まった岡山大学からの学校訪問第1期生です。昨年本校に実習に来ています。明るく爽やかな笥先生と子供たちは、楽しそうに休み時間は外で遊んでいます。また、4年生では算数などの授業を実際に行って、教員になるための研修をしています。

将来、教員になって県北地域で活躍してくれることを楽しみにしています。

